

沖縄キリスト教短期大学
2025年度 卒業時満足度調査
結果報告書

2026年3月
IR センター

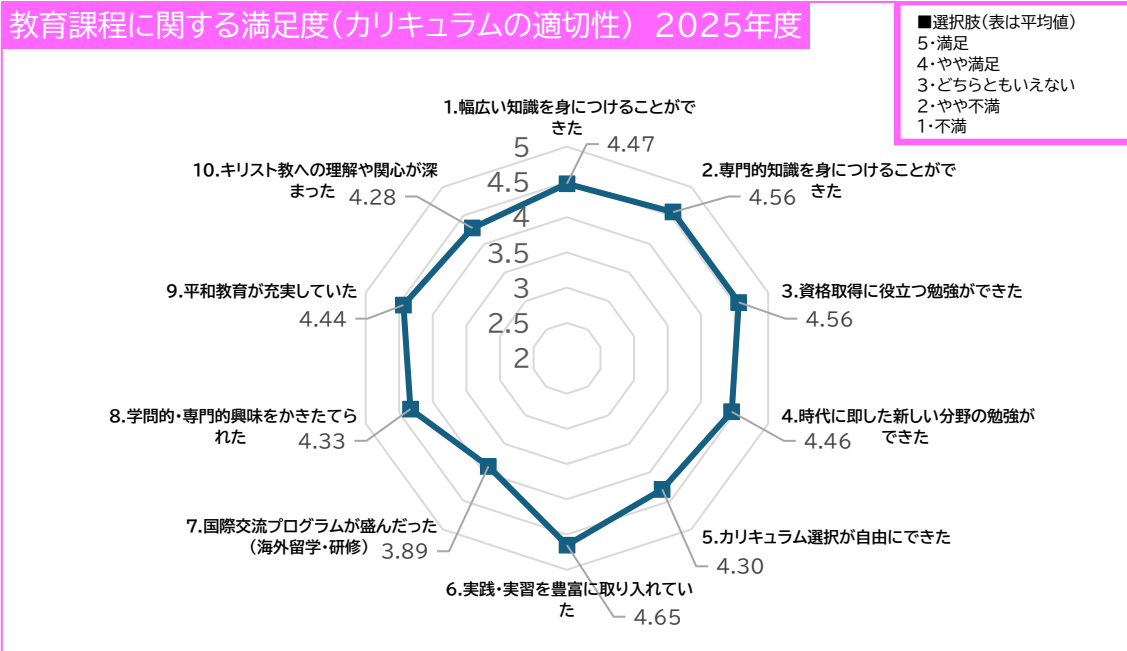
はじめに

本調査は、2025年度の卒業生を対象とし、卒業時点における本学に対する満足度の把握を目的として実施し、アンケート回答を集計したものである。主な質問は「教育課程に関する満足度(カリキュラムの適切性)」、「施設・設備・制度に関する満足度」「学生生活に関する満足度」の視点から設けている。これら質問は従前の同調査に準拠しているが、現状に即した内容とすべく、一部を削除・整理した。さらに、卒業生が本学に対して持っている印象を明確にするため、今年度から「総合的な満足度」に関する質問として、「入学して良かったか」「本学を後輩に勧めたいか」を新たに追加した。

また、昨年度まで示していた質問「一番学びの大きかったこと」「早くに知っておきたかったことやつまずきを感じたこと」のに対する学生記述回答のテキストマイニングの結果については、学内での参照実績が少なかったことから、今回から掲載を取りやめることとした。ただし、学生記述回答詳細については学内で共有し、フィードバックに活用する。

調査対象学科	地域こども保育学科
調査期間	2026年1月5日(月)~1月30日(金)
調査対象者数	62人 ※今年度卒業生数
回答者数	57人
回答率	91.9%(昨年度比 18.1ポイント増) 昨年度回答率 73.8%

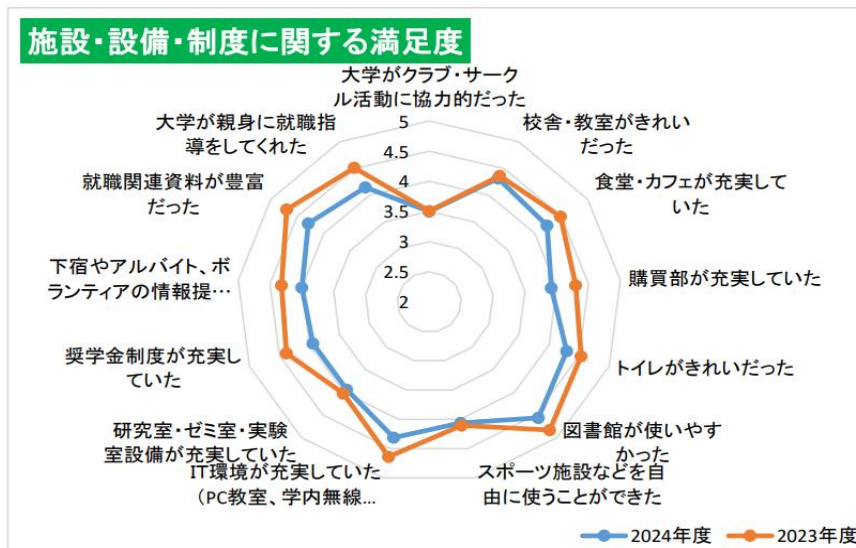
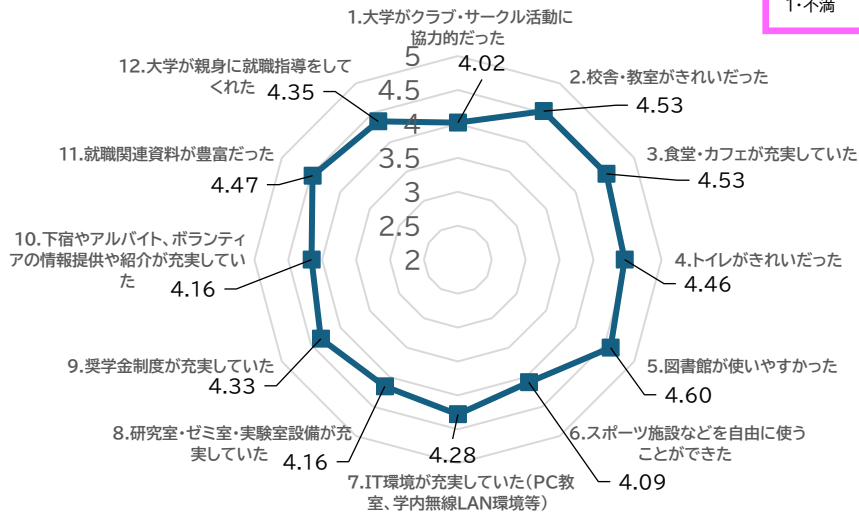
【カテゴリ別満足度】



昨年度までの設問内容およびその順序に変更はない。2024年度は2023年度と比較して、多くの項目でスコアが低下していた。2025年度については、2024年度と比べ、「2.専門的知識を身につけることができた」「3.資格取得に役立つ勉強ができた」「10.キリスト教への理解や関心が深まった」の各項目は横ばいとなった。そして「1.幅広い知識を身につけることができた」「6.実践・実習を豊富に取り入れていた」「8.学問的・専門的興味をかきたてられた」「9.平和教育が充実していた」については、微増の傾向が見られる。特に「4.時代に即した新しい分野の勉強ができた」「5.カリキュラム選択が自由にできた」は増加幅が比較的大きく、「7.国際交流プログラムが盛んだった(海外留学・研修)」については1目盛弱の際立つ増加となり、2023年度および2024年度のスコアを大きく上回った。これは、コロナ禍以降中断を余儀なくされていた海外研修事業が、本格的に再稼働したことによる結果ではないかという印象がある。全体としてスコアを低下させた項目は見られず、改善傾向にあるといえる。引き続き、満足度向上に向けた取り組みが求められる。

施設・設備・制度に関する満足度 2025年度

■選択肢(表は平均値)
 5・満足
 4・やや満足
 3・どちらともいえない
 2・やや不満
 1・不満

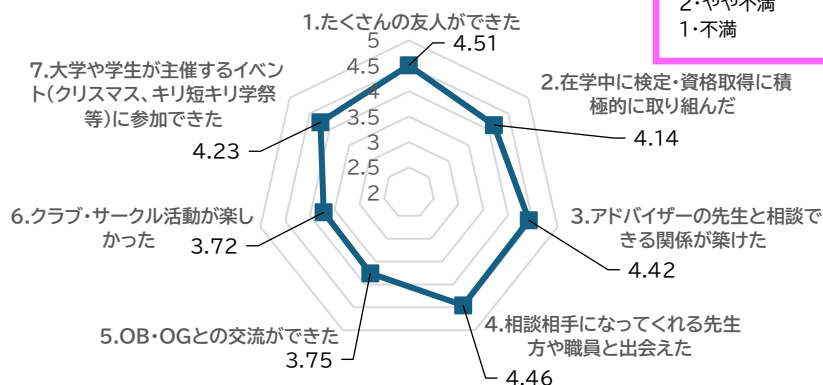


昨年度までは13項目で構成されていたが、現状に即した見直しを行い、今年度からは「購買部が充実していた」を削除し、調査項目は12項目とした。2025年度の結果を確認すると、「5.図書館が使いやすかった」「6.スポーツ施設などを自由に使うことができた」「7.IT環境が充実していた(PC教室、学内無線LAN環境等)」の各項目については、前年度と比較して横ばいであった。一方、「2.校舎・教室がきれいだった」「3.食堂・カフェが充実していた」「4.トイレがきれいだった」「8.研究室・ゼミ室・実験室設備が充実していた」「10.下宿やアルバイト、ボランティアの情報提供や紹介が充実していた」「11.就職関連資料が豊富だった」の各項目については、微増が確認された。

また、「1.大学がクラブ・サークル活動に協力的だった」「9.奨学金制度が充実していた」「12.大学が親身に就職指導してくれた」については増加の幅が大きく、本学の学生サポート体制の充実が一定の成果を上げているものと受け止められる。全体としてスコアを低下させた項目は見られず、改善傾向にあるといえる。今後も引き続き、満足度向上に向けた取り組みが求められる。

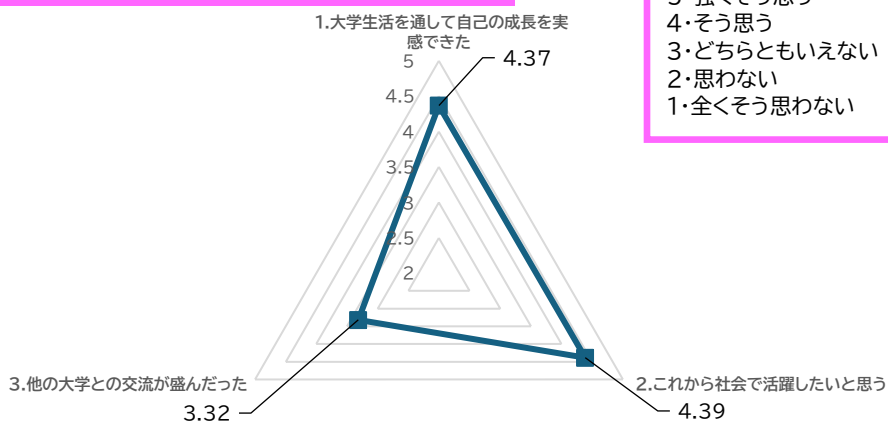
大学生活に関する満足度1 2025年度

■選択肢(表は平均値)
 5・満足
 4・やや満足
 3・どちらともいえない
 2・やや不満
 1・不満

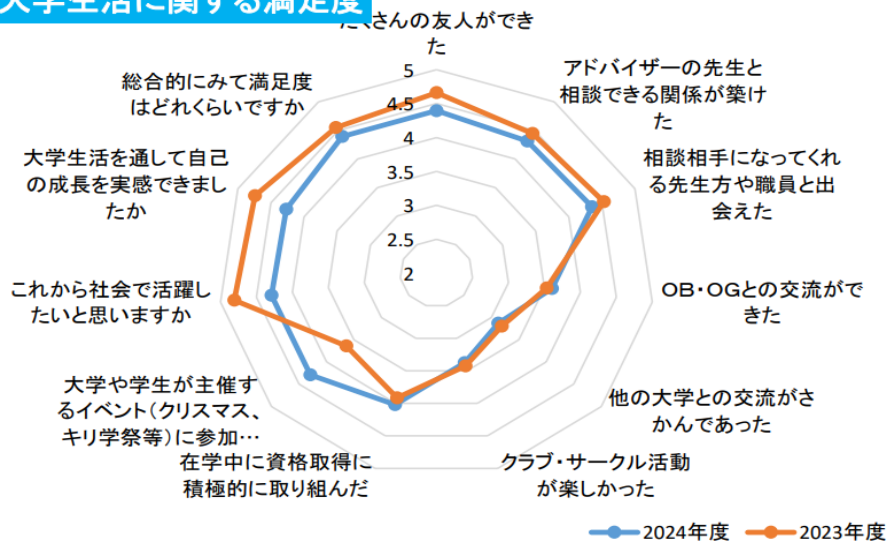


大学生活に関する満足度2 2025年度

■選択肢(表は平均値)
 5・強くそう思う
 4・そう思う
 3・どちらともいえない
 2・思わない
 1・全くそう思わない



大学生活に関する満足度



「大学生活に関する満足度」については、昨年度の調査構成から大きな改定を行った。具体的には、質問の順番の見直しおよび質問文言の微調整を行うとともに、回答の選択肢文言に応じてチャートを分割した。「大学生活に関する満足度 1(以下満足度1)」については、回答選択肢を「満足～不満」とし、「大学生活に関する満足度 2(以下満足度2)」については、回答選択肢を「強く思う～全く思わない」とした。なお、詳細については、各チャート図の選択肢表示を参照されたい。また、昨年度まで設定していた設問「総合的にみて満足度はどれくらいですか」(過年度チャート図右上参照)については、次項の質問「総合的な評価」を新設したため、今年度から削除した。

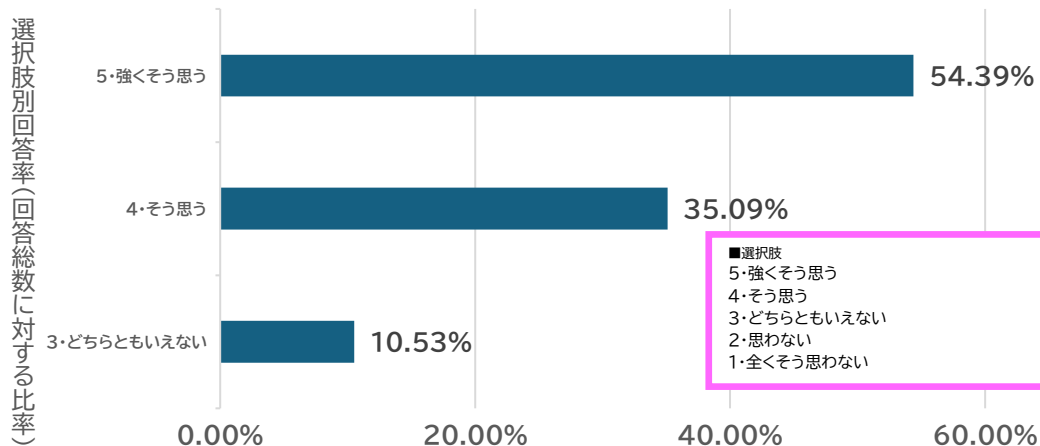
2025年度の結果を見ると、「(満足度1)2.在学中に検定・資格取得に積極的に取り組んだ」「(満足度1)3.アドバイザーの先生と相談できる関係が築けた」「(満足度1)4.相談相手になってくれる先生方や職員と出会えた」「(満足度1)6.クラブ・サークル活動が楽しかった」「(満足度2)1.大学生活を通して自己の成長を実感できた」「(満足度2)2.これから社会で活躍したいと思う」の各項目については、前年度と比較して横ばいとなっている。一方、「(満足度1)5.OB・OGとの交流ができた」「(満足度1)7.大学や学生が主催するイベント(クリスマス、キリ短キリ学祭等)に参加できた」「(満足度2)3.他の大学との交流が盛んだった」については、微減が見られた。微増となったのは「(満足度1)1.たくさんの友人ができた」のみであった。

特に微減となった項目については、従前から満足度が低い傾向にあり、推移を継続的に確認し、以下にフィードバックしていくか検討する必要がある。

【総合的な評価】※2025 年度より新規追加質問

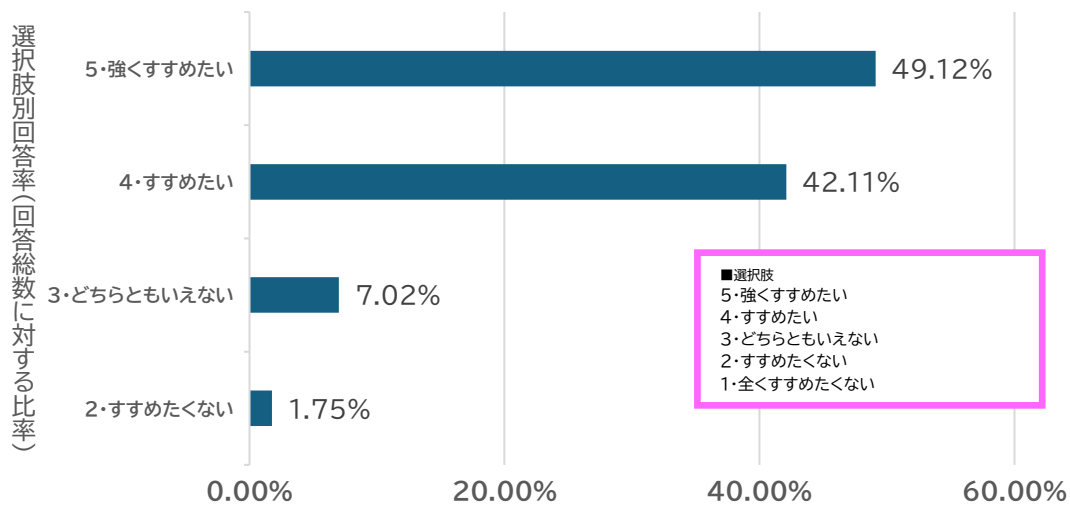
本質問は今年度調査から新設し、「入学して良かったか」「本短大を後輩にすすめたいか」という項目を卒業生に投げかけ、卒業生の満足度をより詳細に把握するべく整えた構成とした。

総合的な評価1:入学して良かったと思いますか



質問「総合的な評価1:入学して良かったと思いますか」では、「5・強く思う」の回答率は 54.39%と半数を超えており、「4・思う」の 35.09%と合わせると 89.48%となり、9 割に迫る回答者が入学したことにポジティブな印象を持っていることがわかる。一方で、「3・どちらともいえない」と回答した学生は 1 割程度であり、「2・思わない」「1・全くそう思わない」との回答は皆無であった。本報告書 P1 にもあるとおり、今回の回答率は「91.9%」と 9 割を超えているため、全体としての信頼性は極めて高い。

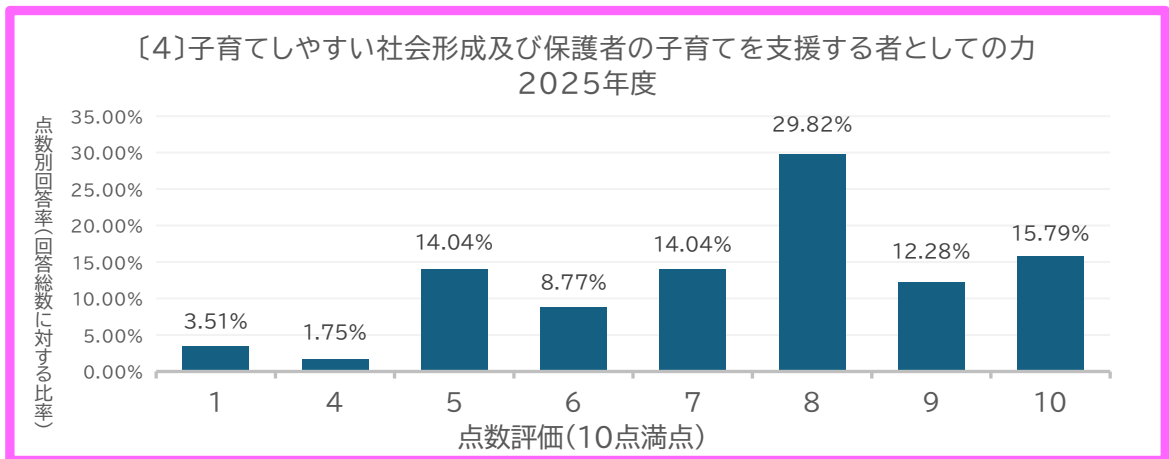
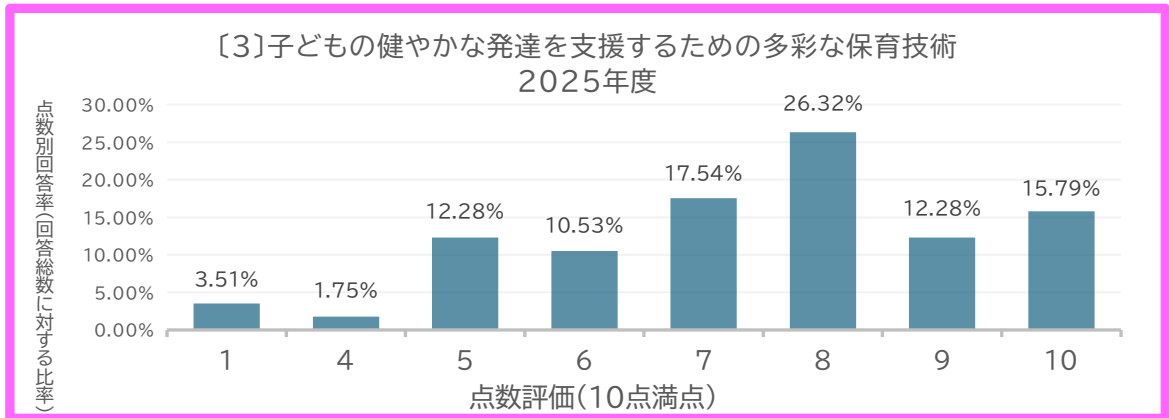
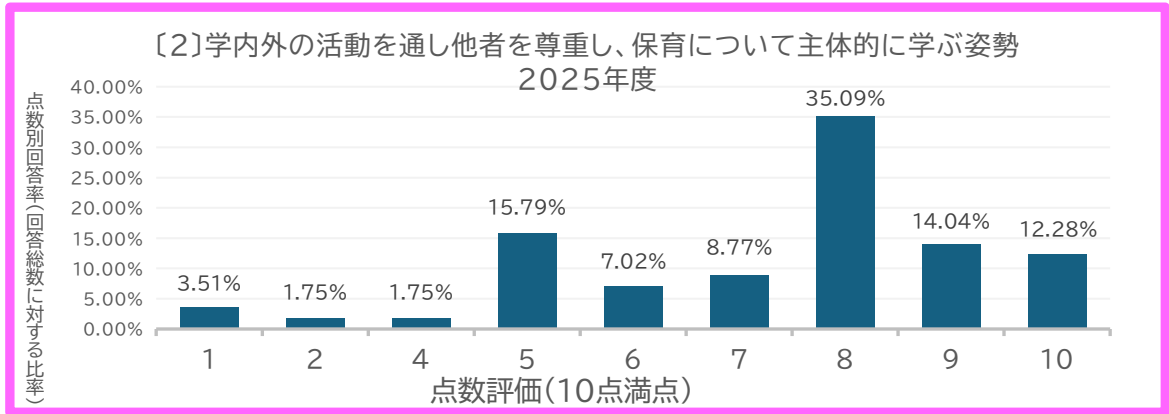
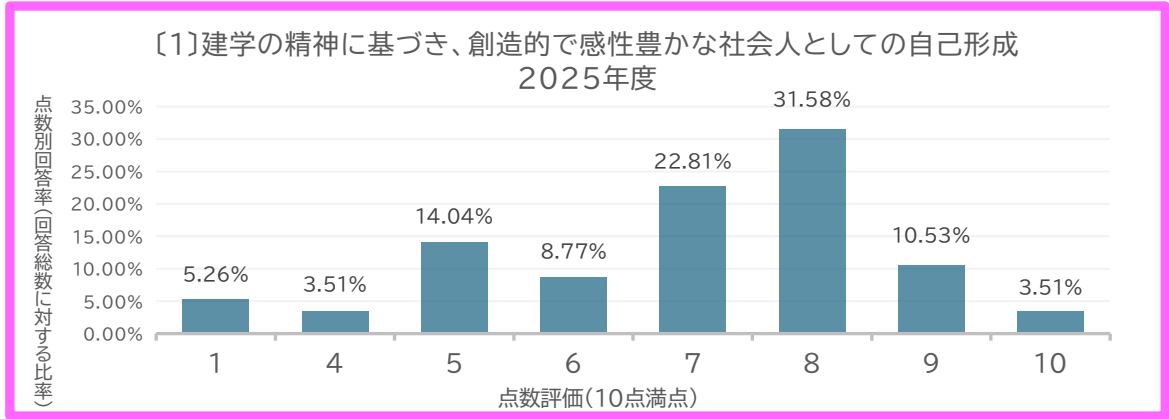
総合的な評価2:沖縄キリスト教短期大学を後輩にすすめたいと思いますか

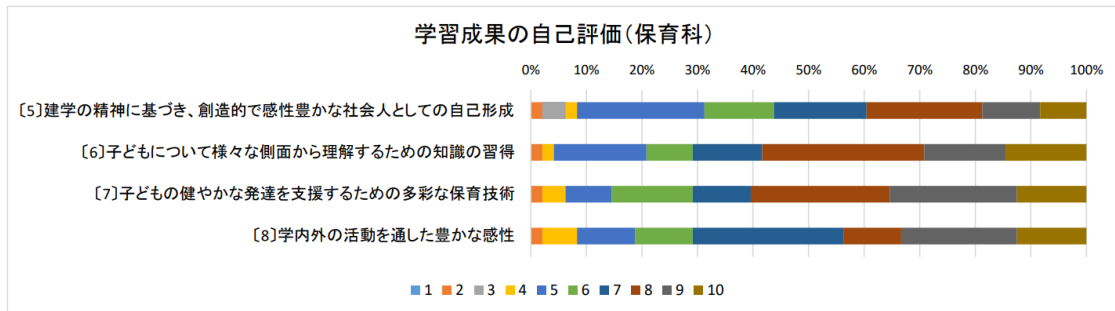
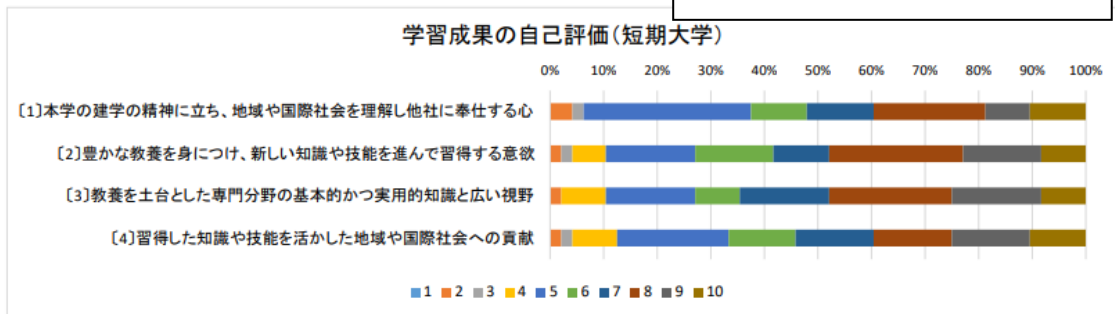


質問「総合的な評価2:沖縄キリスト教短期大学を後輩にすすめたいと思いますか」では、「5・強くすすめたい」が49.12%、「4・すすめたい」が42.11%で、合計91.23%となり、9割超の卒業生が後輩にすすめられる短期大学として本学を評価していることが示された。回答の理由としては、「先生方が優しく、学生との距離が近いので安心して学べた」「友人が多くでき、学校生活が楽しく充実していた」「設備や校舎が整っており、学びやすい環境であった」「専門的知識や資格取得につながる学びが得られた」「実習や現場を通して責任感や現実的な視点を身につけることができた」などが挙げられた。また一部には、「キリスト教の内容に期待との差を感じた」とする意見もみられた。

一方で、「3・どちらともいえない」が7.02%、「2・すすめたくない」との回答も1.75%みられ、少数ではあるが、中立的ないしはネガティブな回答が確認された。これらの回答理由としては、「学校側の対応に十分とは言えない場面があった」「2年間で多くの知識を詰め込むため学修が非常に多忙であり、入学に際しては覚悟が必要である」「授業料の安さを打ち出している一方で、実習費や事務手数料などの追加負担が生じた」「教員によっては授業が分かりにくい、意思疎通が難しいと感じる場面があった」などのコメントがある一方で、「様々な視点から学ぶことができるが、凝縮されたカリキュラムであることを覚悟した上ですすめたい」とする意見もあった。

【学修成果/学習成果 の自己評価】





昨年度(2024 年度)をもって、本短期大学英語科は募集停止となり、本短期大学は今年度(2025 年度)から地域こども保育学科のみとなった。よって、「学修成果／学習成果」の自己評価については、今年度から地域こども保育学科のみを対象とし、短期大学全体の評価は削除した。また、当該学科が示す「学修成果／学習成果」の順序および文言に準拠させ、卒業生の自己評価回答の円滑化に努めた。

なお、今回の分析では、「8 点～10 点」を高評価、「6 点～7 点」を良評価、「5 点」を平均的評価、「1 点～4 点」を低評価として区分する。

「[1]建学の精神に基づき、創造的で感性豊かな社会人としての自己形成」では、高評価の回答率は 45.62%となり、良評価が 31.58%、平均的評価が 14.04%、低評価が 8.77%であった。高評価と良評価の合計は 77.19%であった。

「[2]学内外の活動を通し他者を尊重し、保育について主体的に学ぶ姿勢」では、高評価の回答率は 61.40%となり、良評価が 15.79%、平均的評価が 15.79%、低評価が 7.02%であった。高評価と良評価の合計は、[1]と同じく 77.19%であった。

「[3]子どもの健やかな発達を支援するための多彩な保育技術」では、高評価の回答率は 54.39%となり、良評価が 28.07%、平均的評価が 12.28%、低評価が 5.26%であった。高評価と良評価の合計は 82.46%であった。

「[4]子育てしやすい社会形成及び保護者の子育てを支援する者としての力」では、高評価の回答率は 57.89%となり、良評価が 22.81%、平均的評価が 14.04%、低評価が 5.26%であった。高評価と良評価の合計は 80.70%であった。

[1]および[2]では「良評価～高評価」が 7 割を占め、[3]および[4]では 8 割を占める結果となった。このことから、「学修成果／学習成果」の達成度について、ほとんどの学生がポジティブに自己評価している状況がうかがえる。昨年度の集計結果と比較しても、同様の傾向が確認される。